

院内がん登録

2011年10年生存率集計報告書

スライド資料

# 本リリースのポイント

- 小児がん、AYA世代のがんをそれぞれに特化した分類に基づいて分析  
(2018-2019年小児AYA集計報告書に準拠)
- 小児がん、AYA世代のがんの10年生存率をがん種別に算出

# 院内がん登録生存率集計の目的

- 国が指定するがん診療連携拠点病院等をはじめとする院内がん登録実施施設における、患者の平均的な予後の把握
- 過去の症例のデータではあるが、各がん種と診断された際の予後を検討する際の1つの参考資料

# 院内がん登録生存率集計での手順

## 第1段階: 集計対象例の選定

自施設初回治療例(集計用症例区分2or3)

悪性新生物<腫瘍>

( \*脳・中枢神経系良性腫瘍、GISTの良性または悪性の別不詳を含む)

年齢0~99歳

診断日変更

打ち切り例の確認

## 第2段階: 施設へのデータ確認

## 第3段階: 不完全データ等除外

性別不詳

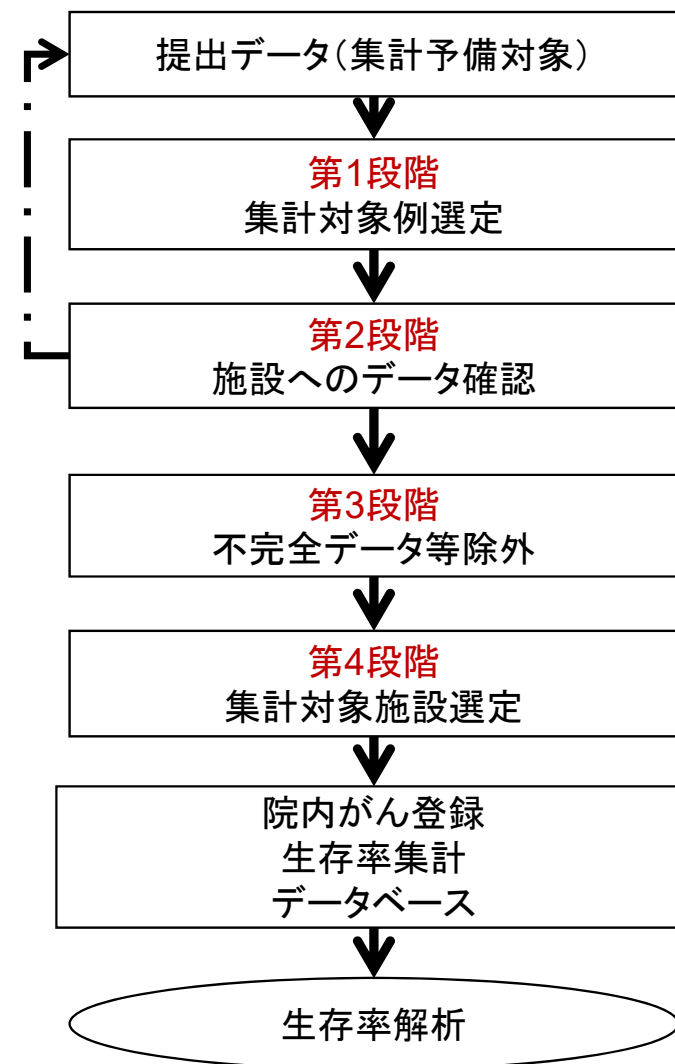
診断日が不明

追跡終了日が不明

総合ステージ0期

## 第4段階: 集計対象施設選定

**(生存状況把握割合90%以上)**



# 主な集計内容

## がんの部位

全がん

がん(がん種別)

胃がん、大腸がん(結腸・直腸)、肝がん(肝細胞がん・肝内胆管がん)  
肺がん(小細胞肺がん・非小細胞肺がん)、乳がん、食道がん、膵臓がん、  
前立腺がん、子宮頸がん、子宮体がん、膀胱がん、  
甲状腺乳頭/濾胞がん・甲状腺未分化がん・甲状腺髄様がん、胆嚢がん、  
喉頭がん、腎がん、腎盂尿管がん、卵巣がん

\* 肝がんと肺がんは、院内がん登録生存率集計結果閲覧システムのみ

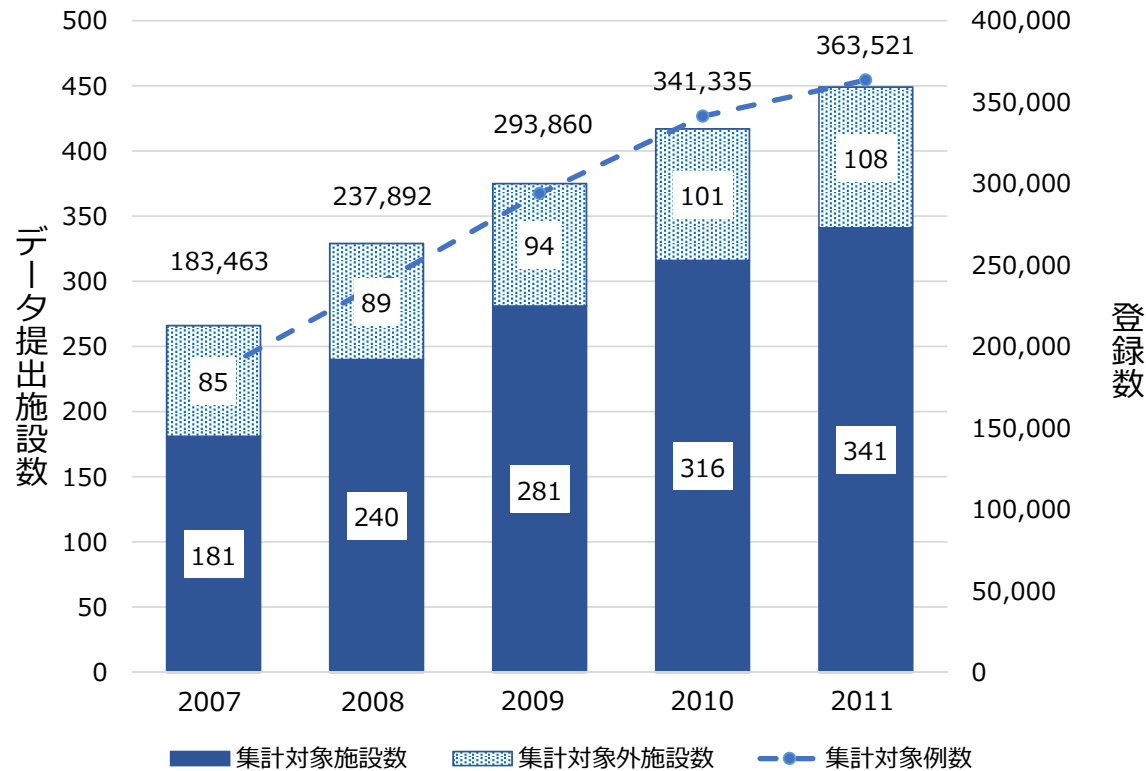
## 項目

性別、病期別、年齢階級、観血的治療(手術)の有無別等実施

\* 病期は国際病期分類(UICC TNM分類)

2011年10年生存率：第6版準拠

# 2011年10年生存率の結果概要



(集計対象施設=全がんの生存状況把握割合が90%以上)

341施設363,521例対象  
 前回より25施設増加 ↑  
 対象例は22,186例増加 ↑

全がんの生存率  
 実測46.0%、ネット53.5%  
 平均年齢67.6歳  
 (前回実測46.1%、ネット53.3%)

\*母集団が毎年異なっており、年齢調整等をしていないため、生存率の経年比較や施設間比較は困難

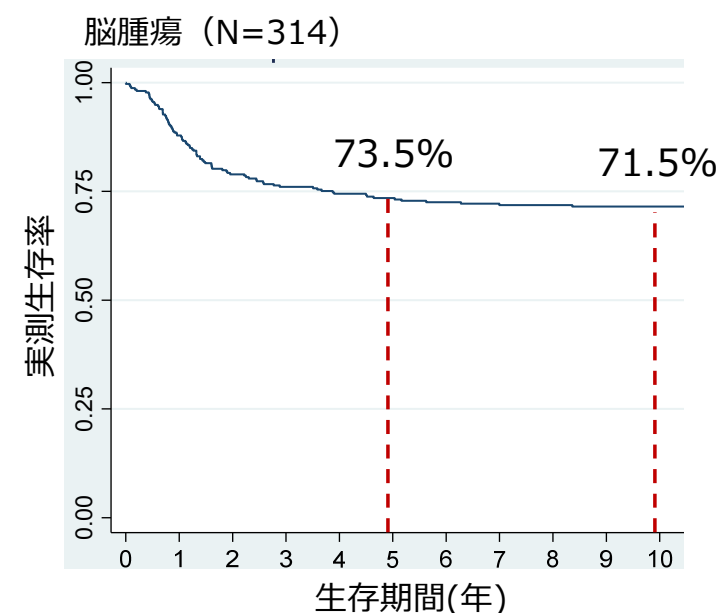
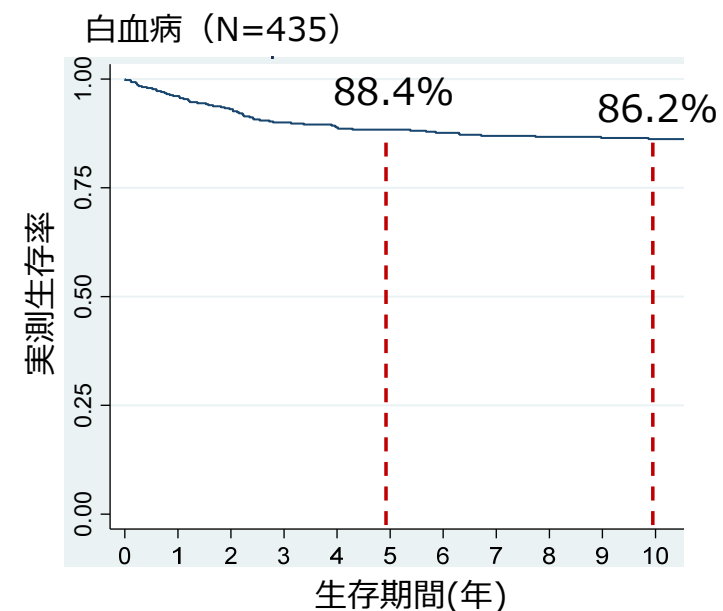
# 小児がん10年生存率

院内がん登録2018－2019年小児AYA集計報告書に沿って、  
国際小児がん分類（ICCC第3版/WHO2008改訂版）主分類別生存率を計算  
（0～14歳を対象）

	施設数	対象数	生存状況 把握割合 (%)	平均年齢 (歳)	5年実測	10年実測	10年ネット	95%信頼区間
白血病	94	435	93.1	5.6	88.4	86.2	86.6	83.3-89.8
リンパ腫	56	105	93.3	8.1	92.4	91.4	91.5	86.2-96.9
脳腫瘍	109	314	94.3	7.5	73.5	71.5	71.7	66.7-76.8
神経芽腫	38	57	94.7	2.1	73.3	67.9	68.5	56.3-80.7
網膜芽腫	18	28	100.0	1.6	-	-	-	-
腎腫瘍	18	25	96.0	2.2	-	-	-	-
肝腫瘍	21	23	100.0	1.3	-	-	-	-
骨腫瘍	30	46	97.8	10.4	73.6	71.4	71.4	58.4-84.4
軟部腫瘍	42	53	92.5	7.4	75.4	73.5	73.7	61.9-85.5
胚細胞腫瘍	51	86	91.9	8.7	96.5	95.3	95.6	91.1-100
その他のがん(癌)	31	34	94.1	11.1	97.1	91.1	91.2	81.7-100

※上皮内癌を含まない、その他（10例）や変換不能（21例）を除く

小児がんの多くは5年から10年にかけて生存率は低下しにくい



# AYA世代のがん10年生存率

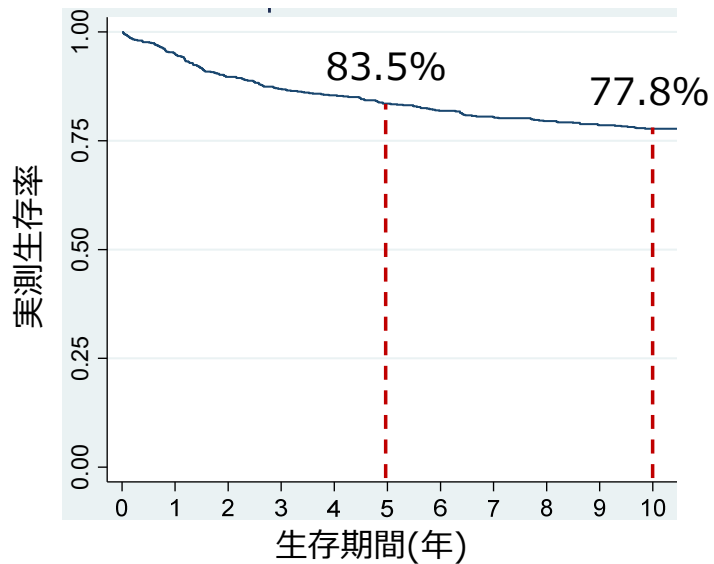
院内がん登録2018－2019年小児AYA集計報告書に沿って、  
AYA Site Recode/WHO2008改訂版の主分類別生存率を計算（15～39歳を対象）

	施設数	対象数	生存状況把握割合 (%)	平均年齢 (歳)	5年実測	10年実測	10年ネット	95%信頼区間
白血病	204	646	90.9	29.0	72.8	70.1	70.6	67.0-74.1
リンパ腫	224	734	85.7	30.3	88.0	86.0	86.6	84.0-89.1
脳・脊髄腫瘍	195	823	89.7	30.1	83.5	77.8	78.2	75.3-81.1
骨・軟骨腫瘍	62	146	91.8	26.6	68.3	62.5	62.9	54.9-70.8
軟部肉腫	135	347	89.0	30.8	75.5	70.5	70.9	66.0-75.8
胚細胞性他	240	745	86.3	29.4	93.7	93.6	94.3	92.5-96.0
黒色腫・皮膚癌	98	167	87.4	33.3	82.9	79.5	80.1	73.8-86.4
癌腫（上皮性の悪性腫瘍）	333	7,443	91.6	34.3	82.4	78.3	78.8	77.9-79.8
甲状腺がん(癌)	236	820	87.7	31.6	99.4	98.8	99.4	98.6-100
頭頸部のその他のがん(癌)	148	380	87.6	32.3	83.3	78.7	79.2	75.0-83.4
肺・気管支のがん(癌)	146	284	92.3	35.0	46.3	38.8	39.1	33.3-44.9
乳がん(癌)	281	1,963	94.0	35.6	90.0	83.5	84.0	82.3-85.6
腎がん(癌)	126	198	92.9	35.3	90.3	87.6	88.3	83.6-93.0
膀胱がん(癌)	41	43	88.4	33.0	79.1	71.5	72.0	58.4-85.5
性腺のがん(癌)	178	362	94.2	33.9	90.0	75.4	75.9	71.4-80.4
子宮頸部・子宮がん(癌)	266	1,726	90.6	34.0	88.6	87.2	87.7	86.1-89.3
大腸がん(癌)	254	677	90.3	34.3	75.2	69.9	70.5	66.9-74.0
胃がん(癌)	224	589	91.9	34.8	61.8	59.2	59.7	55.7-63.7
肝内胆管がん(癌)	101	139	94.2	34.7	43.1	36.1	36.4	28.3-44.5
膵臓癌他消化器系のがん(癌)	105	160	94.4	35.1	50.1	43.6	43.9	36.2-51.7
その他のがん(癌腫)	71	102	94.1	34.2	54.2	44.5	44.8	34.9-54.6
その他の癌新生物	132	206	89.8	32.0	79.9	74.1	74.6	68.5-80.7
分類不能の悪性新生物	58	85	95.3	33.5	39.8	37.2	37.4	27.1-47.8

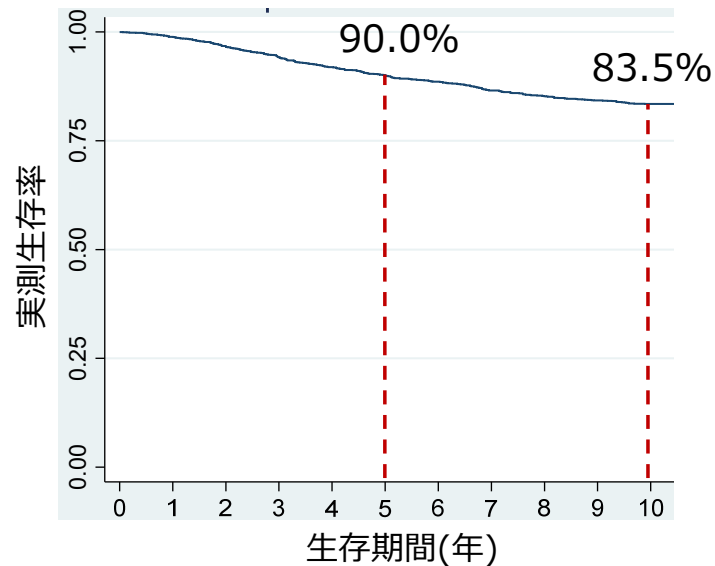
※上皮内癌を含まない、変換不能（623例）を除く  
AYA: Adolescent and Young Adult(思春期・若年成人)



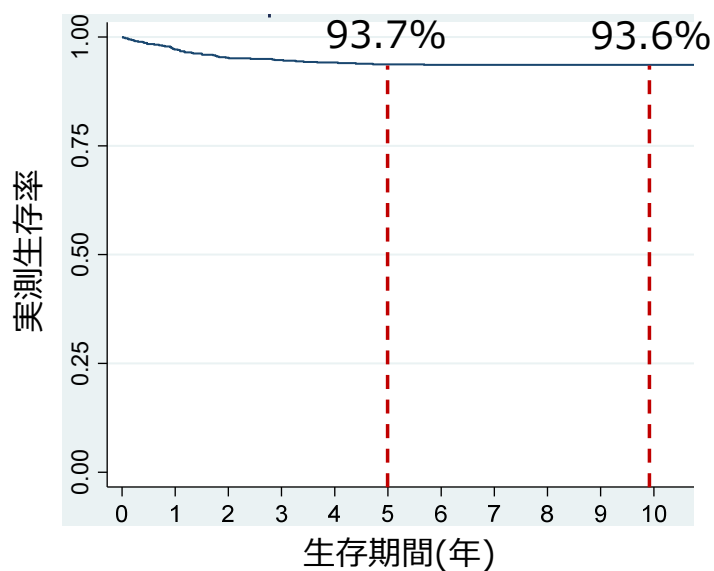
脳・脊髄腫瘍 (N=823)



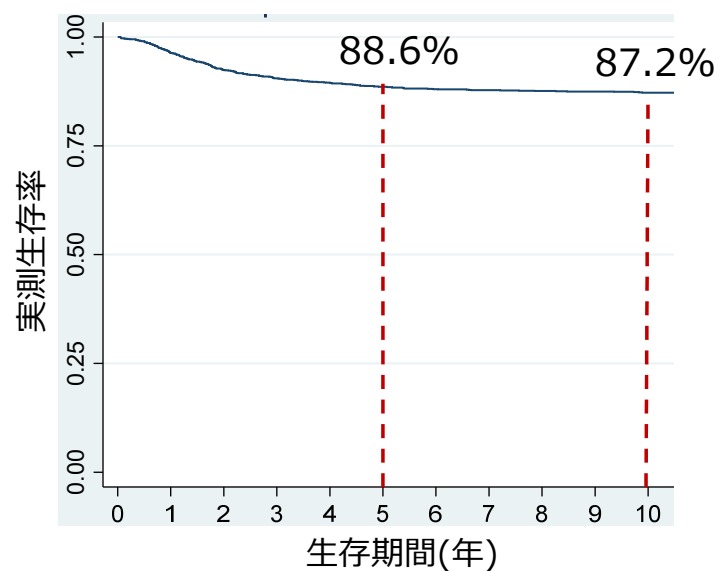
乳癌 (N=1,963)



胚細胞性他 (N=745)



子宮頸部・子宮癌 (N=1,726)



AYA世代のがんにおいて、  
5年から10年にかけての  
生存率の低下は、  
がん種によって様々

# 乳がんと子宮頸がんにおける病期の内訳と生存率

## 乳がん

	AYA世代(15-39歳)				40歳以上*			
	対象数(%)	平均年齢	実測5年生存率	実測10年生存率	対象数(%)	平均年齢	実測5年生存率	実測10年生存率
I期	708 (36.1)	35.9	98.0	95.8	12,679 (44.5)	61.1	95.0	87.6
II期	860 (43.8)	35.4	93.3	87.0	10,659 (37.4)	60.8	90.9	80.9
III期	277 (14.1)	35.4	77.1	64.9	3,377 (11.9)	62.1	75.7	58.5
IV期	108 (5.5)	35.1	44.9	23.8	1,590 (5.6)	61.7	34.4	15.5
全体	1,963 (100)	35.6	90.0	83.5	28,474 (100)	61.2	87.5	77.4

乳がんでは各病期の5年生存率は年代によって大きく変わりなし  
併存症などの状況による影響あり

## 子宮頸がん<sup>†</sup>

	AYA世代(15-39歳)				40歳以上*			
	対象数(%)	平均年齢	実測5年生存率	実測10年生存率	対象数(%)	平均年齢	実測5年生存率	実測10年生存率
I期	932 (68.4)	33.6	97.3	96.1	1,944 (38.8)	55.3	90.2	85.0
II期	135 (9.9)	34.5	85.8	84.3	910 (18.2)	63.4	76.5	64.6
III期	213 (15.6)	34.4	66.2	63.2	1,249 (24.9)	61.3	58.8	48.6
IV期	67 (4.9)	34.2	22.4	20.8	826 (16.5)	63.5	24.4	17.9
全体	1,363 (100)	33.8	87.5	86.0	5,012 (100)	59.8	68.6	60.5

子宮頸がんではAYA世代で I 期の割合が多い  
併存症などの状況による影響あり

\*AYA世代のがんと40歳以上のがんでは分類方法が異なっていることに注意

<sup>†</sup>「子宮頸部・子宮癌」のうち、局在コードC530-531,538,539を子宮頸癌とした(形態コード変更なし)

# 院内がん登録10年生存率集計のまとめ

- 集計対象施設、症例数ともに増加しており、より安定した推定値の算出ができた  
2011年10年生存率 341施設 約36万例（前回316施設 約34万例）
- 小児がん、AYA世代のがんの分類に基づいて、10年生存率を計算した
- がん種によるが小児がんの多くでは5年から10年の生存率の低下は少ない
- AYA世代のがんでは、40歳以上と比較して、  
病期の内訳や併存症などの状況が異なっていると考えられる
- 小児やAYA世代のがん対策を考える上での基礎的な資料の1つ